



Title	Genetic Analysis of Dengue Virus in Severe and Non-Severe Cases in Dhaka, Bangladesh, in 2018-2022
Author(s)	Mst Rummana, Rahim
Citation	大阪大学, 2025, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/101509
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

論文内容の要旨

Synopsis of Thesis

氏 名 Name	Mst. Rummana Rahim
論文題名 Title	Genetic Analysis of Dengue Virus in Severe and Non-Severe Cases in Dhaka, Bangladesh, in 2018-2022 (2018年から2022年にかけてバングラデシュ国ダッカで見られたデングウイルスの遺伝子解析)
<p>論文内容の要旨</p> <p>〔目 的(Purpose)〕</p> <p>デングウイルス感染症は軽症からデング出血熱およびデングショック症候群と幅広い臨床像を示すウイルス感染症である。血清型が4種類あり、1回目の感染とは異なる血清型に2回目に感染した場合に重症化することがあると言われている。我々は、バングラデシュ国の首都ダッカにおいて流行したデングウイルスがの血清型及び遺伝子型に重症例に特徴的なものがあるかどうかを調べた。</p> <p>〔方法ならびに成績(Methods/Results)〕</p> <p>2018年から2022年にかけてエバーケア病院でデング熱を疑われた症例3759検体から、デング感染症と診断されたのは495例だった。2018年から2019年にかけては血清型1-3型が混在し主に血清型2型が流行していたが、新型コロナウイルスのパンデミック2020年には感染者そのものが見られなくなり、2021年から2022年にかけては血清型3型のみ置き換わった。2019年には血清型3型を中心に重症症例が散見されたが、解析可能だった179例のウイルスのE領域の配列解析からは重症例に特徴的な配列は見られなかった。</p> <p>〔総 括(Conclusion)〕</p> <p>重症症例に特異的なウイルスの配列が見られなかったことから、血清型2型から3型へのシフトなど、異なる血清型の流行が重症症例の増加の原因になることが考えられた。</p>	

論文審査の結果の要旨及び担当者

(申請者氏名)		Mst. Rummana Rahim	
論文審査担当者	(職)	氏 名	
	主 査	大阪大学教授	塩田 達雄 著 名
	副 査	大阪大学教授	渡辺 登喜子 著 名
	副 査	大阪大学教授	上田 啓次 著 名

論文審査の結果の要旨

デングウイルス感染症は軽症からデング出血熱およびデングショック症候群と幅広い臨床像を示すウイルス感染症である。血清型が4種類あり、1回目の感染とは異なる血清型に2回目に感染した場合に重症化することがあると言われている。我々は、バングラデシュ国の首都ダッカにおいて流行したデングウイルスがの血清型及び遺伝子型に重症例に特徴的なものがあるかどうかを調べた。

2018年から2022年にかけてエバーケア病院でデング熱を疑われた症例3759検体から、デング感染症と診断されたのは495例だった。2018年から2019年にかけては血清型1-3型が混在し主に血清型2型が流行していたが、新型コロナウイルスのパンデミック2020年には感染者そのものが見られなくなり、2021年から2022年にかけては血清型3型のみに置き換わった。2019年には血清型3型を中心に重症症例が散見されたが、解析可能だった179例のウイルスのE領域の配列解析からは重症例に特徴的な配列は見られなかった。

本論文はデングウイルスを重症例と非重症例の違いを臨床材料を用いて明らかにしようとしたものであり博士（医学）の学位授与に値する。